

山形県地域密着型サービス自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
Ⅰ. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
Ⅴ. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

※項目番号26 馴染みながらのサービス利用

項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援

については、小規模多機能型居宅介護事業所のみ記入してください。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	フラワー吉原
（ユニット名）	すずらん
所在地 （県・市町村名）	山形市
記入者名 （管理者）	（管理者）工藤 里美 （ユニット長）高山 誠也 （介護員）齋藤智子、朝倉恵、高石里子、鈴木得夫、東海林毅、鈴木まゆみ
記入日	平成 20年 10月 1日

山形県地域密着型サービス自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	尊厳や権利、個性を大切にしながら地域の中で安心した暮らしが継続出来るように、ホーム独自の理念を事務所入り口に掲示している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入職時研修で理念を伝えており、現任研修時に理念の確認を行っている。又、日々のケアに於いても理念の実践に向けて取り組んでいけるよう、朝の申し送り時に唱和している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホームパンフレット表紙に理念をのせており、来訪者にはわかりやすく伝えるようにしている。又、年3回ホーム便りを作成し、ご家族や地域住民に配布し、ホームの生活の様子や取り組みを理解してもらえように取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩や買い物に出かけたり近隣の方々や商店の人と挨拶を交わしたり話をしたりしている。近隣の方より、野菜の差し入れや花の苗を頂いたりし、少しずつだが馴染みの関係になってきている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に一般会員として加入しており、地域のお祭り、盆踊り、敬老会等には入居者と共に参加している。又、近くの福祉施設の入所者が月1回来所され交流を図ったり、5月末に中学生が職場体験学習で来訪されている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	人材育成の貢献として今年度は介護職員基礎研修の実習生、地域密着型サービス評価調査員の研修生を受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年2回、全職員で自己評価を行い、改善に向けて具体案の検討や実践に繋げるための努力を行っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、活動状況、入居者や職員の状況等を報告し、意見をもらうようにしている。又、外部評価や自己評価の結果も報告し、意見や要望等を活かすようにしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の受け入れなど、サービス向上のために市と連携を図っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	対応が必要と思われる入居者がいない為、権利擁護に関して知識や理解が少ない。	○	未だ研修等で学ぶ機会がない為これから学ぶことが出来るようにしたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時研修の中で拘束、虐待について説明を行っている。	○	新入職員に限らず、理解を深めるために勉強会を開催する必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間を十分にとり説明を行っている。特に利用料金や緊急時の協力要請、契約解除については詳しく説明し、同意を得るようにしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中で、入居者の言葉や態度から、本人の思いを察するように努めている。又、介護相談員や傾聴ボランティアを受け入れており、外部者にも伝えられるようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1ヶ月の様子を記入し、家族に郵送している。又、金銭管理についても、入出金報告書と領収書を一緒に毎月郵送している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所した際、入所者の状況等を伝えながら家族の意見等を伺うようにしている。又、家族会を設けており、懇談会等で意見交換が行われている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月各ユニット毎の会議で話し合われた内容や意見等を聞き、活かすようにしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の生活の流れに合わせたローテーションを組んでいるが、入居者の重度化により、介護の必要性が増え、余裕がなくなってきた。	○	時間内にケアをこなすのではなく、利用者の気持ちを尊重しながらケアを行えるように職員の気持ちを切り替える必要がある。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には各ユニットの職員を固定化し、顔馴染みの職員によるケアを心掛けている。離職による職員の入れ替わり時も、利用者に影響が出ないように配慮を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外研修に参加した職員には、研修レポートを記入し、各ユニットに配り情報を共有出来る様にしているほか、ユニット会議で研修内容を報告する機会を設けている。	○	研修会への参加人数が限られてしまったり、同じ人に偏ってしまう為、出来るだけ多くの職員が参加出来る様に配慮したい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や県のグループホーム連絡会主催の研修会等に参加しており、意見交換や交換研修に取り組んでいる。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	事業所内に親睦会を設け、定期的に気分転換を図れる機会を作っている。職員同士の人間関係を把握したりするよう努めている。	○	歓送迎会等でユニット単位での親睦を深める場を設けたが、回数をもう少し増やして行なっていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員各人が日頃のケアを見直ししながら向上心を持って働けるように自己評価を行うようにしているが、昨年度は行えなかった。	○	職員各人の自己評価を行う。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接にてそれまでの生活状況を把握し、とくに初期はその方との関係を築くことを主目的として対応し、訴えや希望がスムーズに出るよう努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が求めている事、本人が生活する上で不安に感じる事を受け止め、ケアに活かすようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際は、必要なサービスを見極め、医療サービス等実施出来るように努めている。		
26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に利用者の思いを理解し、共有する努力をしている。又、主に家事動作をしている場面では利用者を中心とした対応で互いに支えあう場面をつくり、お互いの関係作りを行っている。	○	利用者の得意分野を見極め、それを発揮する場をもっと充実させたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに情報を交換しあい、家族と同じ気持ちを共有できるように心掛けているが、家族によって差があり、まだ不十分である。	○	面会などにこられないご家族には電話などでも連絡をとるよう心がけ、家族が話をしやすい関係を築いていくようこれからも努力したい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族、本人の思いや状況を見極めながら、外出や外泊で家族と一緒に過ごすことを勧めたり、行事に家族を誘ったりしながら、より良い関係の継続に努めている。	○	手紙のやりとりや報告、話し合いの場の充実でこれからも家族とのつながりが途切れないようにしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす友人や知人宅に訪問したり、継続的な交流が出来るようにしている。しかし、本人の記憶が定かでなく、また家族も交友関係を把握していない方などについては把握しておらず、全員の対応には至っていない。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者間の関係を把握し、円滑な生活が送れるよう配慮している。トラブルの際もスタッフが間に入ることで、関係悪化を防ぐようにしている。毎日のお茶や食事の際には必ずスタッフが一緒に入るようにして会話のなかで信頼関係の構築と関係の把握に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後に相談にのれるよう体制はとっているが、他の事業所に移った方との交流がなくなってしまったケースもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりの中で表情や行動から汲み取り、把握するように努めている。はっきりと訴えることができない利用者については本人の気持ちになって推測するようにしている。家族や関係者からの情報収集にも心がけている。	○	家族からの情報が充実してきたが、これからも継続し全体像の把握に努める。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取りや本人との話の中で把握している。家族からの情報も随時聞き取るようにしている。	○	これからも家族からの情報を得て把握に努める。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解すると共に、行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の関わりの中で思いや意見を聞き、プランに反映させるようにしている。家族から直接意見を聞くようにしており、情報も充実させてきている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の遂行状況をみながら、利用者の状態変化に応じて見直しを行うようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを作成し、食事、排泄、バイタルや日々の暮らし、言葉などを記録している。全職員がいつでも見られるようにしており、勤務開始時に確認している。	○	時間がとれず、勤務時間内に記録をすることができない状況がある。今後、業務の見直し等で出来るだけ時間内に記録をする方法を考えていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、公民館、図書館、その他公共的施設などの協力を得ながら支援している	入居者が地域生活を継続していくために、周辺の施設や商店の協力を得ながら支援を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や生活支援上の必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、介護保険外も含めて他のサービスを利用するための支援をしている	近隣の福祉施設の方が毎月訪問して下さり交流を図っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加しており、関係が強化されている。	○	周辺情報や支援に関する情報交換等、活発に意見交換を行い、さらに関係を密にしていく必要がある。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療機関となっており、入居者の状態変化がある場合、家族と相談の上対応を行っている。受診結果については文書や電話で報告を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	母体が精神科の医療機関であるため、診断情報や認知症についての指示や助言をもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援が行えるようにしている。看護職員がいない時間は、その指示に応じて介護職員が支援するようにしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院によるダメージを少しでも防ぐために医師と相談しながら事業所で対応できる段階で早く退院できるよう連携をとるようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応、看取りに関して指針を定め、家族から同意をもらっている。又、状態の変化があるごとに、家族の気持ちの変化や思いに注意を払い、支援を行うようにしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度の入居者がホームで生活する上で、対応が可能な事、困難な事、職員が不安に思っていること等を家族に伝え、ホームの現状、本人の状態を理解してもらうようにしている。家族やかかりつけ医とも連携をとりながら、今後について検討を行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい住環境でもこれまでの生活の継続性が損なわれないように、これまでの生活環境、支援の内容、注意が必要な点について情報提供し、連携をとるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護がより必要な方に対しての関わりについて、利用者の誇りやプライバシーを損ねないように気を配り、周囲から見ても気分を害さないように心がけている。全ての職員が個人情報保護法の理解に努め、秘密保持の徹底が図られている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中で、個々の能力に合わせて自己決定する場面を作るようにしている。お茶の時間には、「飲み物メニュー」の中から好きな飲み物を選んで頂いている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れの中に一人ひとりの体調を配慮しながら、その日、その時の本人の希望やペースに合わせ支援を行っている。	○	意思表示の困難な方、介護を希望されない方の支援をどうしていくか、これからも検討していく必要がある。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者個々の個性、好みを尊重し、服装や髪型等支援するようにしており、不十分な所はプライドに配慮しながら、さりげなく直すようにしている。理美容院は本人又は家族の希望されるところを利用するようにしており、理美容院の利用を拒否される方は、本人の希望を伺いながら職員が毛染めやカットさせて頂いている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取りながら、買物から調理、盛り付け、片付け等を利用者と一緒に行い、職員も同じテーブルで食事を摂り、楽しい雰囲気になるようにしている。利用者の好みや健康状態に合わせたやさらかさや大きさの配慮も行っている。	○	献立を利用者が考えることはなかなか困難で、「なんでもいいよ」と言われてしまうことが多いが、少しでも食卓にいつも好んで食べていた味を出すことができるように一緒に考える機会を増やしていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の希望にそって嗜好物や酒等を一緒に購入して楽しめるように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、確認しながらトイレ誘導を行っている。便意のない利用者には排便リズムを把握し、便座に少し長く座って頂いたり、腹部マッサージを行ったりし、失禁を減らすようにしている。トイレ誘導を嫌がる入居者については、時間をずらして対応する等している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	意思表示のできる利用者については希望どおり入浴していたっているが、そうではない方については希望どおりに入っているとはいえない。	○	意思表示できない方が、自宅ではどの時間にどのように入浴されていたか情報をきき、なじみの時間、方法で入浴できるようにしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。一人ひとりの体調や表情、希望に合わせて、休息がとれるよう支援している。又、就寝前に混乱が見られる方には、訴えを傾聴し、安心できるような言葉掛けを行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の能力を見極めて仕事をお願いし、終わった後は必ず感謝の言葉を伝えている。利用者の経験や知恵を発揮できる場面を作るようにしている。買物、ドライブ、散歩やカラオケ等、気晴らしや楽しみ事を利用者と相談しながら行っている。	○	意思表示の困難な方や、控えめな方については興味のありそうなものを普段の生活の中や家族からの情報により推測し、提供するようにしている。スタッフのなかで、利用者についてこれはできないのではないかという思い込みができていないか、改めて見直していくようにしたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は小遣い程度所持しており、病院受診時や買物等の支払いを行っている。自己管理出来ない方は事務所で管理している。金額の管理ができない利用者はノートに支払い額と残高を記入して管理したり、財布をしまい忘れてしまう利用者には、こちらで財布を預かり、買物の際、お渡ししている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材や必要な物品の買出しで毎日のように外出しており、天候や本人の希望に応じてドライブや外食等に出かけ気分転換を図るようにしている。歩行困難な方でも、車や車椅子等で戸外へ出かけている。	○	外出する利用者が偏ってきているので、なかなか外出できない方も出かけられるように意識していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者と家族の方と相談しながら、外出、外泊等を支援している。本人の希望により、馴染みの場所や店に連れて行ったりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から電話の希望があればかけて頂き、電話の取次ぎの際も居室でゆっくり会話して頂いている。手紙等も本人に渡したり、理解出来ない利用者には読んであげている。贈り物があつたときには必ずお礼の電話をいれ、手紙があればできるだけ自力で返事を書いてもらうようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間は決めておらず、いつでも気軽に来やすい雰囲気作りを心掛けている。他の利用者に気兼ねなく過ごして頂けるよう、居室で過ごして頂いたり、又その時の利用者の状況に合わせて、リビングでゆったりと過ごして頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時研修に於いて、身体拘束の内容とその弊害、虐待について説明をしており、拘束のないケアを心掛けている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけずに安全面に配慮し、自由な暮らしを支援している。不穏状態で外出しそうな利用者にはさりげなく声を掛けたり、一緒について行く等して対応している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員の事務作業は同じ空間で行い、常に入居者の状況を把握するようにしているが、頻繁に外出する利用者がスタッフが把握していない間に数キロ先まで自力で外出してしまったということがあった。	○	本人・家族と話し合い、安全に外出が出来るような対策を話し合う。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを取り除くことなく、利用者の状況変化に合わせて保管、管理を行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書やひやりハット報告書を記入し、各ユニットや委員会で話し合い、再発防止策等検討している。事故が起きた際は、速やかに家族に説明と報告を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアルを整備し、周知徹底を図っている。年1回、看護師より勉強会を行うようにしている。	○	勉強会を行なっているが、経験不足の為不安はある。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を行い、避難誘導な方法や避難経路の確認、消火器の取り扱い等を訓練を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	力の発揮や抑圧感のない暮らしに努め、利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて職員全員が把握し対策を行い、家族に説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い、普段の利用者の状況を把握し、体調や些細な表情の変化を見逃さないよう、早期発見に努めている。又、変化時の記録を付け看護師とも相談し、状況によって医療受診に繋げている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬の用途や目的を把握し、又、把握出来るように処方箋を利用者毎に整理している。服薬時は本人に手渡し、服用出来たか確認してからその場を離れるようにしている。薬の処方や用量が変更された時は様子観察に気を配っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	散歩や家事活動等を設けて、水分補給を十分に行っている。又、個々の排便リズムを掴み、腹部マッサージ等で自然排便を促している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの重要性を全職員が理解し、毎食後の歯磨きの声掛けや見守り、介助を行っている。義歯を使用している利用者には、就寝前の義歯の洗浄消毒を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容や食事量は、毎日チェック表に記録しおおまかな栄養状態を把握している。献立は事前に管理栄養士にチェックして頂き、定期的に専門的アドバイスを頂いている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策のマニュアルを作成し、感染症に関する情報収集を行い、予防、対策に努めている。利用者及び家族に同意を頂き、職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。ノロウイルス対策として、食事用具やテーブルの消毒を毎日行っている。	○	手洗い・うがいの徹底、ユニット内の消毒などこれからも続けていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、布巾等は毎晩消毒を行っている。新鮮で安全な食材を使用する為、毎日業者配達や買物を行っている。又、冷蔵庫、冷凍庫内の点検を行い、調理残りはすぐに処分している。食器類の消毒を行い、生ものについては当日配達してもらうようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周辺の花壇に季節の花を植えたり、玄関先にベンチを置いて、日常的に活用し、明るい雰囲気作りを行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング内に畳の空間を設け、座卓を置き、畳でお茶等できるようにしている。季節の飾り物(雛人形、五月人形等)をしたり、ゆず湯、桜餅などで、季節感をとり入れている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2, 3人掛けのソファや椅子を置いて、一人で過ごしたり、仲の良い利用者とかつろげるスペースを作っている。利用者によって、しまっておくよりもいつでも見られるように写真や思い出の品などを壁にはるなどしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた家具や物、馴染みの物を持ち込んでもらい、入居者の居心地の良さに配慮を行っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日中、夜間共、温度と湿度のチェックを行い、冷暖房の調節は職員の感覚だけでなく、入居者の状態に配慮しながら行っている。居室ごとに湿度の調整を行なうようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所の流し台の高さは、入居者が作業を行いやすいように作られており、浴槽も入居者がまたぎやすいように、埋め込まれている。又、車椅子を使用されている方のために、ホーム内はバリアフリーとなっている。利用者の状態に合わせて、トイレ、浴室、廊下等に手摺りを設け、安全確保と自立への配慮を行っている。	○	不便なところがないかこれからも話を聴く機会をもつ
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	状態が変わり新たな混乱や失敗が生じた場合、職員で話し合い、本人の不安材料を取り除き、力を取り戻せるよう試みている。		
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキに物干し竿やプランター、パラソルや椅子を置き、活動したり外気浴したり等、日常的に楽しみながら活動できるような環境作りを行っている。季節の花を植えたり飾ったりして楽しんでもらえるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
		○	③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の 人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者との つながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援 者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足して いると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね 満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
		○	③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の重度化が増えてきている為、「今だから出来る事」を大切に、御家族や地域の方々の協力を受けながら、入居者個々に検討し、積極的に外出する等、地域社会との関係の継続性を大切にしながら、様々な事にチャレンジしていきたいと思っている。入居者個々の見極めを行い、出来る事の継続を支援し、その人らしさを大切にしながら、安心して楽しく暮らせる場であるように本人の気持ちの理解に努め、利用者本位のより良いケアが行えるように、日々取り組んでいる。職員が入居者にとって信頼できるパートナーであるように、職員それぞれが入居者との関係作りに力を入れている。「すずらん」ユニットは穏やかで安心して過ごせる雰囲気作りをしており、自分のペースで生活できるよう配慮している。